

平成23年度第2回 かわさき市民アンケート 概要版

調 査 の 概 要

調査設計等	◆調査対象 川崎市在住の満20歳以上の男女個人 ◆標本数 3,000 標本 ◆標本抽出 住民基本台帳及び外国人登録原票からの層化二段無作為抽出	◆調査方法 郵送法 ◆調査期間 平成23年10月28日(金)～11月17日(木) ◆有効回収数 1,500 標本 ◆有効回収率 50.0%
調査項目	1 定住状況について 2 生活環境の評価について 3 関心ごとと行動範囲について 4 市政に対する評価と要望について 5 区民会議について	6 生物多様性について 7 がん検診について 8 川崎市の都市交通について 9 川崎市民オンブズマン制度及び人権オンブズパーソン制度について

※ 基数となるべき実数（n）は、設問に対する回答者数である。また、本文中の「百分率」は小数点第2位を四捨五入しているため、あるいは複数回答のため、数値の合計が100にならない場合がある。

調 査 回 答 者 の 属 性

1 性別

	基 数 (人)	構成比 (%)
1 男性	593	39.5
2 女性	869	57.9
(無回答)	38	2.5
合 計	1,500	100.0

2 居住区別

	基 数 (人)	構成比 (%)
1 川崎区	231	15.4
2 幸区	153	10.2
3 中原区	257	17.1
4 高津区	219	14.6
5 宮前区	247	16.5
6 多摩区	208	13.9
7 麻生区	176	11.7
(無回答)	9	0.6
合 計	1,500	100.0

3 性／年代別

	全体		男性		女性		無回答	
	基 数 (人)	構成比 (%)	基 数 (人)	構成比 (%)	基 数 (人)	構成比 (%)	基 数 (人)	構成比 (%)
1 20 歳代	133	8.9	51	8.6	82	9.4	—	—
2 30 歳代	305	20.3	104	17.5	200	23.0	1	2.6
3 40 歳代	331	22.1	135	22.8	195	22.4	1	2.6
4 50 歳代	273	18.2	102	17.2	170	19.6	1	2.6
5 60 歳代	239	15.9	106	17.9	131	15.1	2	5.3
6 70 歳以上	185	12.3	95	16.0	89	10.2	1	2.6
(無回答)	34	2.3	—	—	2	0.2	32	84.2
合 計	1,500	100.0	593	100.0	869	100.0	38	100.0

1 定住状況について

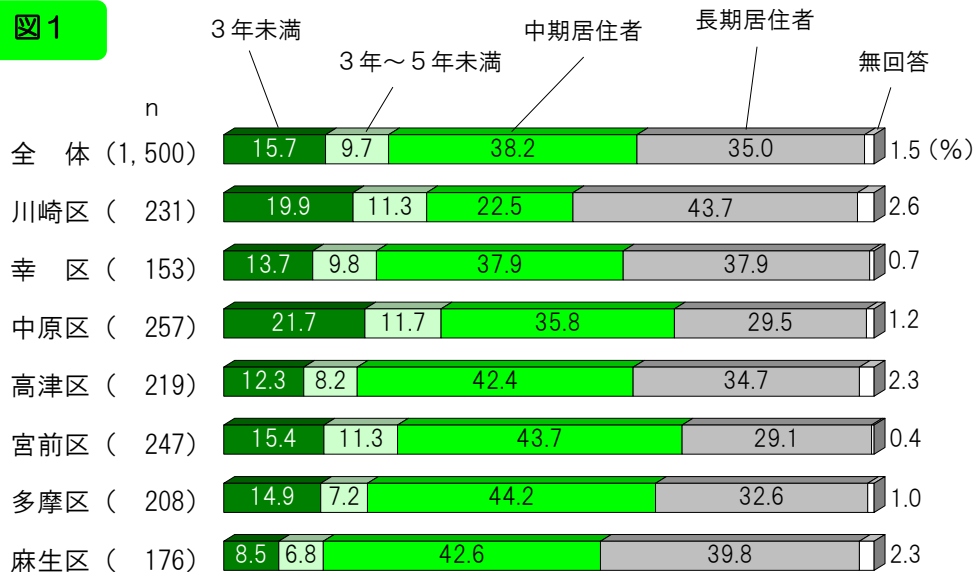
1 居住年数

居住年数を聞いた。居住区別でみると、＜長期居住者※¹＞は川崎区（43.7%）が4割を超え最も高くなっている。＜中期居住者※²＞は多摩区（44.2%）、宮前区（43.7%）、麻生区（42.6%）、高津区（42.4%）で4割を超えている。一方、「3年未満」は中原区（21.7%）で2割を超え最も高くなっている。

※1 長期居住者：居住年数が20年以上

※2 中期居住者：居住年数が5年以上～20年未満

図1



2 定住意向

定住意向を聞いた。「これからも住んでいたい」（69.3%）は約7割となっており、10年前（平成13年度）との比較でみると、13.3ポイント増加している。

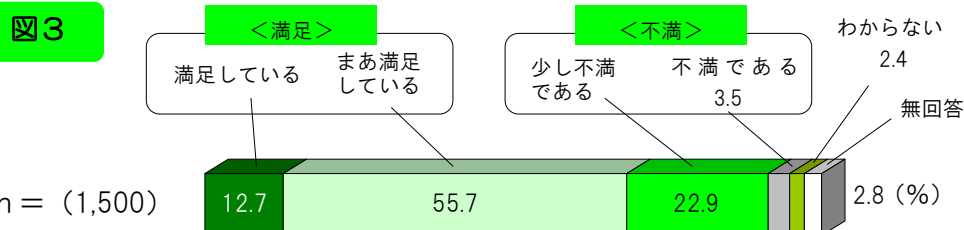
図2



2 生活環境の評価について

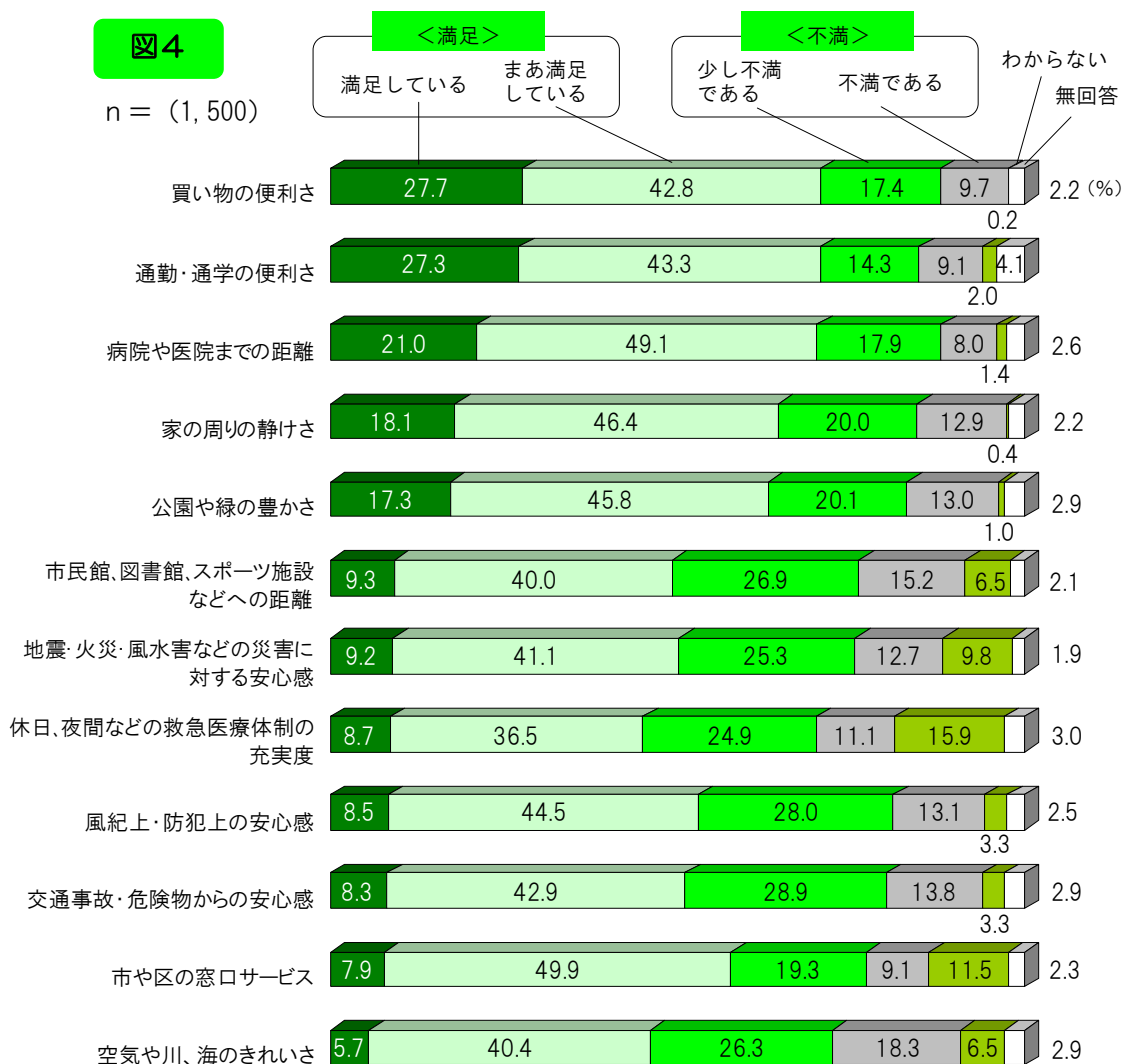
1 総合的な生活環境の満足度

生活環境の評価について、総合的な満足度を聞いた。「満足している」(12.7%)と「まあ満足している」(55.7%)を合わせた<満足>は7割弱となっている。一方、「少し不満である」(22.9%)と「不満である」(3.5%)を合わせた<不満>は2割半ばとなっている。



2 生活環境の満足度

生活環境の評価について、各項目の満足度を聞いた。「満足している」と「まあ満足している」を合わせた<満足>は、「買い物の便利さ」(70.5%)、「通勤・通学の便利さ」(70.6%)、「病院や医院までの距離」(70.1%)が7割を超えている。



3 関心ごとと行動範囲について

1 関心を持っていること

関心を持っていることを聞いた。「健康」(71.5%)が7割を超え最も高くなっている。次いで、「老後の生活」(53.4%)、「家族」(47.9%)、「仕事(家事や勉強も含む)」(41.5%)、「お金・財産」(40.3%)という順になっている。過去5年の推移をみても、上位3項目は「健康」「老後の生活」「家族」で変動はない。

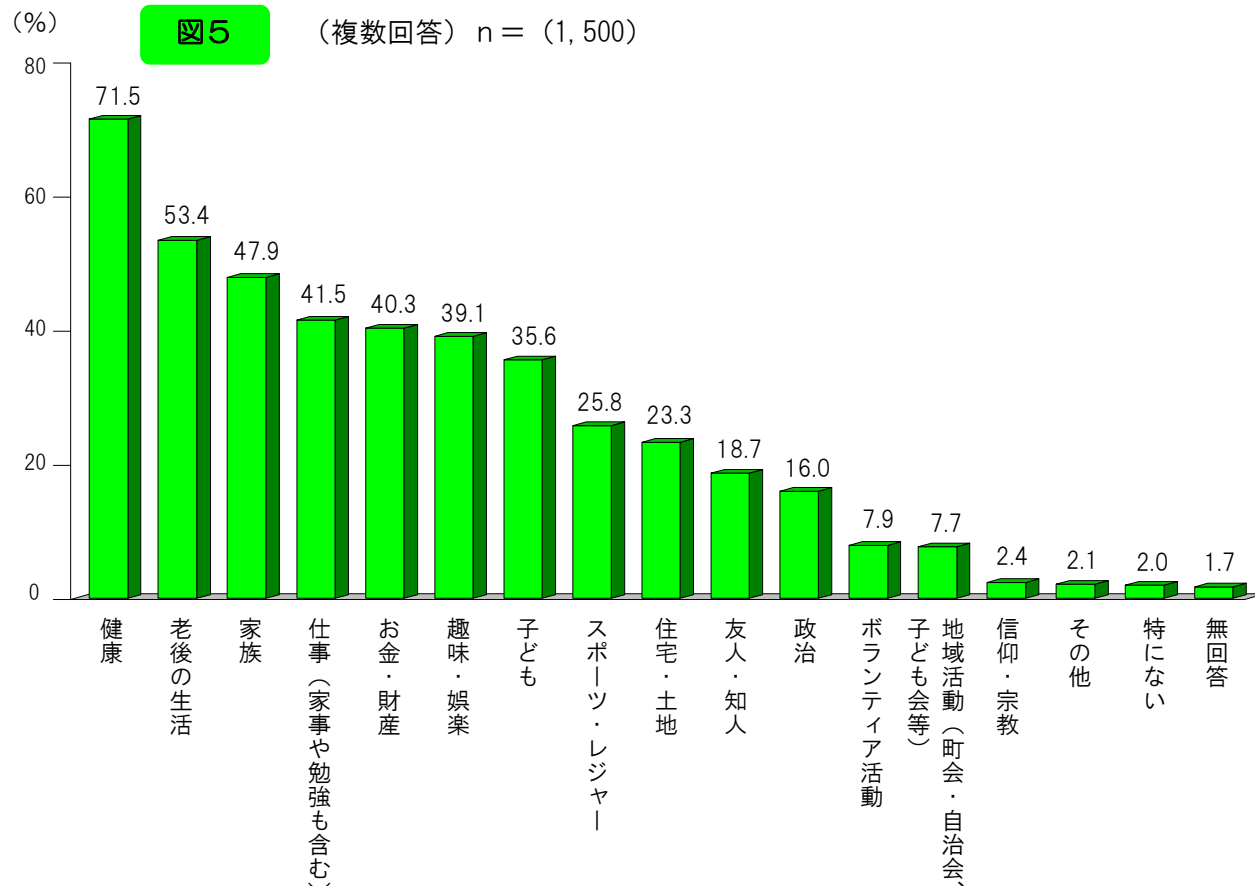


表1 過去5年経年比較(上位6項目)

(%)

年度	順位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位	第6位
平成18年度		健康 71.3	老後の生活 51.4	家族 51.0	趣味・娯楽 45.9	仕事(家事や勉強も含む) 40.6	子ども 35.5
平成19年度		健康 73.2	老後の生活 52.6	家族 49.4	趣味・娯楽 41.6	仕事(家事や勉強も含む) 41.4	子ども 34.0
平成20年度		健康 68.7	老後の生活 53.2	家族 46.7	お金・財産 41.2	仕事(家事や勉強も含む) 40.3	趣味・娯楽 40.2
平成21年度		健康 70.8	老後の生活 51.6	家族 49.7	仕事(家事や勉強も含む) 43.7	趣味・娯楽 41.4	お金・財産 41.2
平成22年度		健康 66.8	老後の生活 49.5	家族 48.2	仕事(家事や勉強も含む) 43.6	お金・財産 41.6	趣味・娯楽 39.7
平成23年度		健康 71.5	老後の生活 53.4	家族 47.9	仕事(家事や勉強も含む) 41.5	お金・財産 40.3	趣味・娯楽 39.1

注:「お金・財産」は平成19年度調査までは「金・財産」であった。

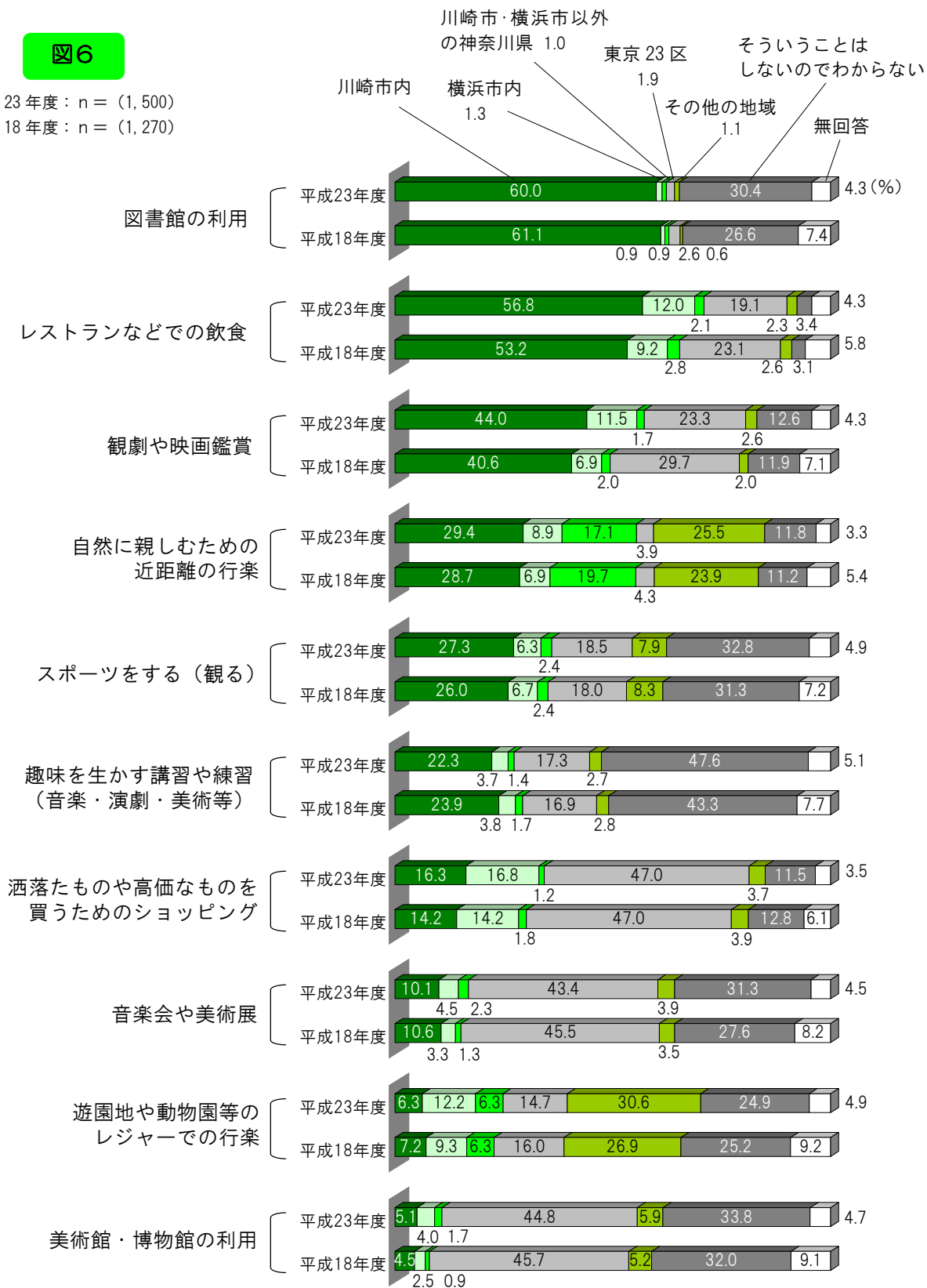
2 行楽・文化施設の利用・ショッピングの場所

行楽や文化施設の利用、ショッピングの場所などを聞いた。『川崎市内』の利用率が高い項目は、「図書館の利用」(60.0%)、「レストランなどでの飲食」(56.8%)、「観劇や映画鑑賞」(44.0%)、「自然に親しむための近距離の行楽」(29.4%)となっている。

5年前(平成18年度)と比較してみると、「レストランなどでの飲食」で3.6ポイント、「観劇や映画鑑賞」で3.4ポイント、それぞれ『川崎市内』の利用率が増加している。

図6

平成23年度：n = (1,500)
平成18年度：n = (1,270)



4 市政に対する評価と要望について

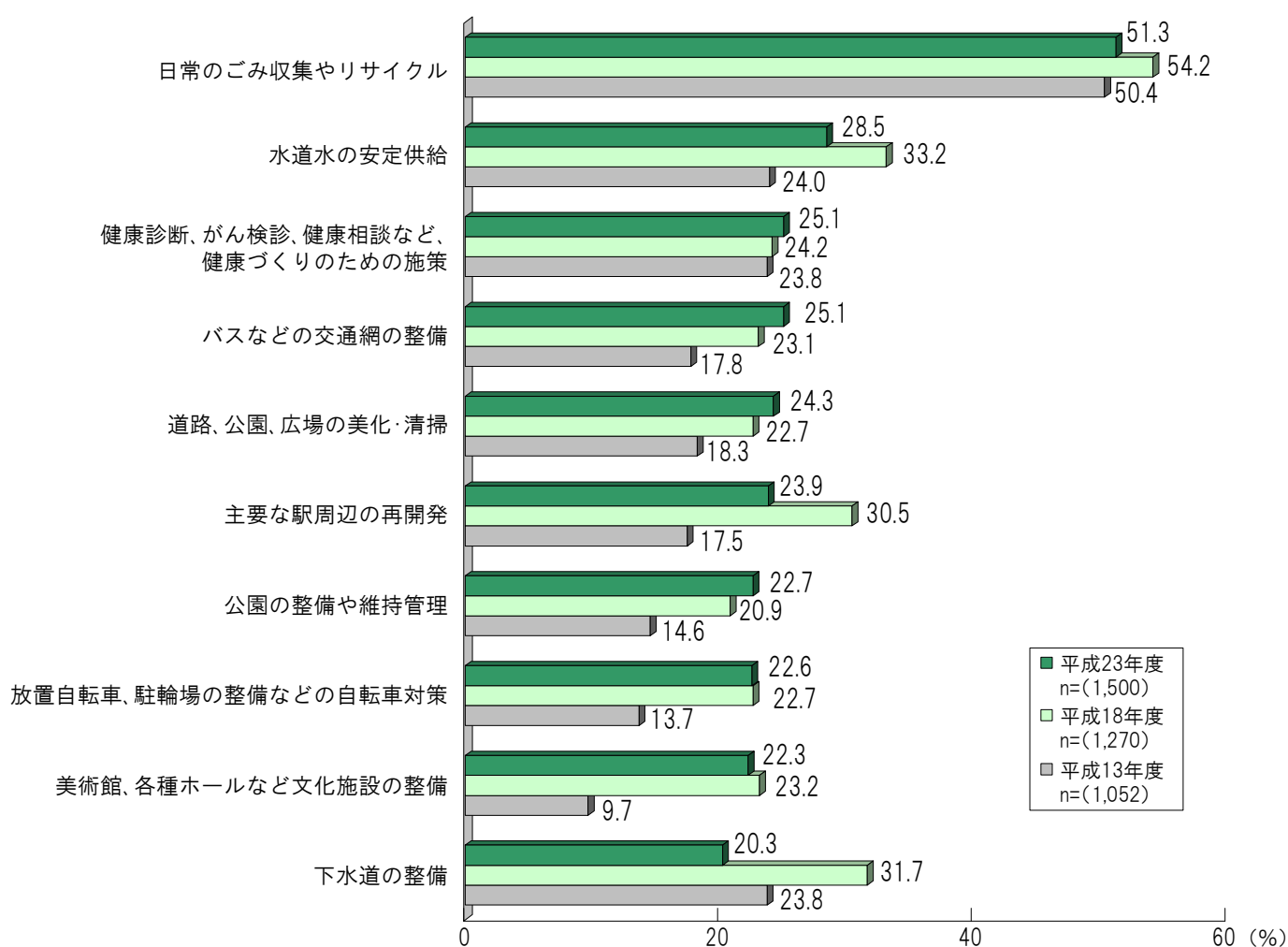
1 市政の仕事でよくやっていると思うこと

市政の仕事でよくやっていると思うことを聞いた。「日常のごみ収集やリサイクル」(51.3%)は5割を超え最も高く、次いで「水道水の安定供給」(28.5%)、「健康診断、がん検診、健康相談など、健康づくりのための施策」「バスなどの交通網の整備」(25.1%)となっている。

5年前(平成18年度)との比較でみると、「下水道の整備」が11.4ポイント減少、「主要な駅周辺の再開発」が6.6ポイント減少、「水道水の安定供給」が4.7ポイント減少しているものの、「下水道の整備」以外は10年前(平成13年度)と比較すると増加している。なお、10年前と比べ5ポイント以上増加している項目は、「放置自転車、駐輪場の整備などの自転車対策」(8.9ポイント増)、「公園の整備や維持管理」(8.1ポイント増)、「バスなどの交通網の整備」(7.3ポイント増)、「道路、公園、広場の美化・清掃」(6.0ポイント増)となっている。

図7

(複数回答、上位10項目、平成18年度・平成13年度との比較)

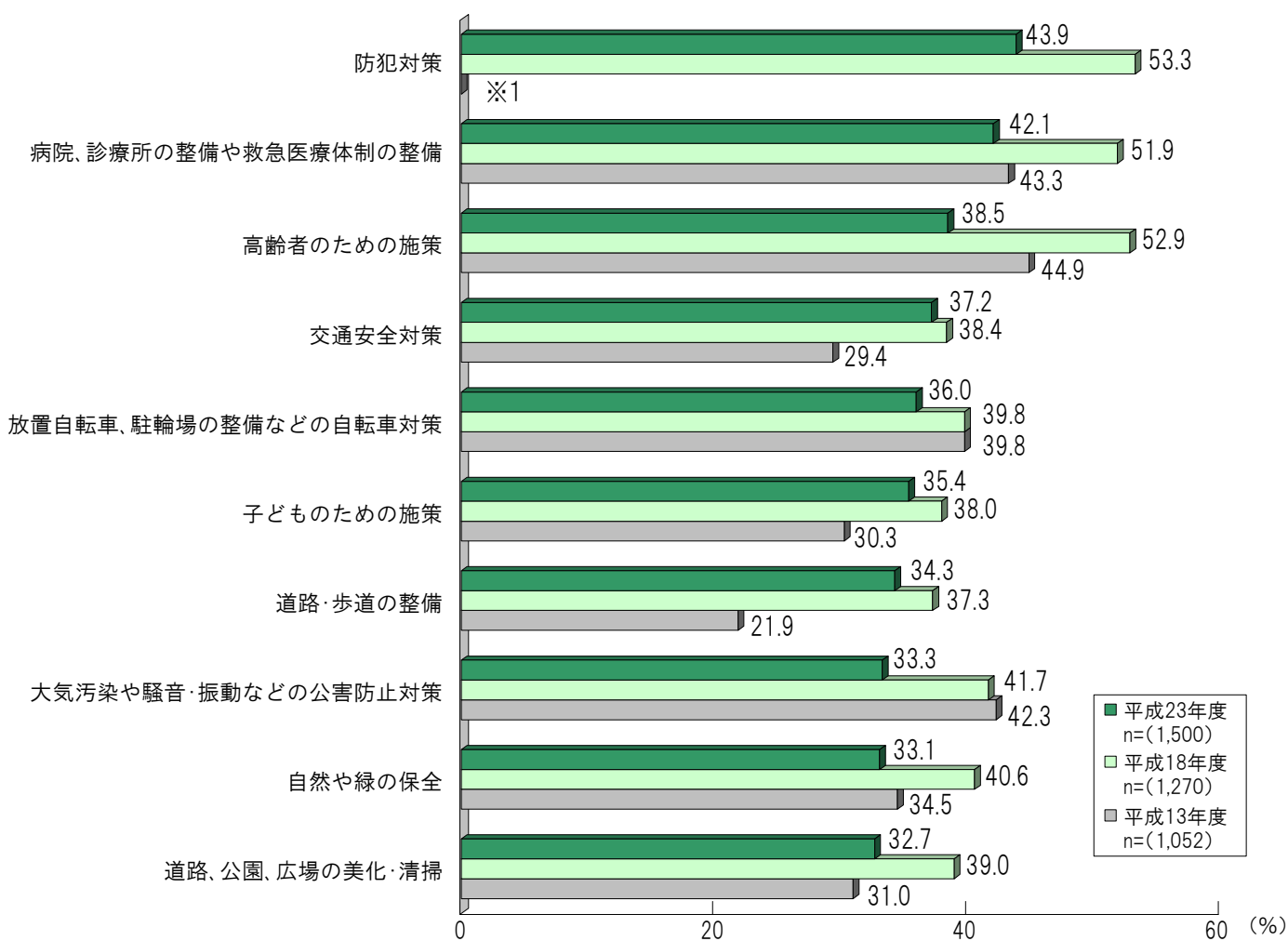


2 市政の仕事で今後特に力を入れてほしいこと

市政の仕事で今後特に力を入れてほしいことを聞いた。「防犯対策」(43.9%)、「病院、診療所の整備や救急医療体制の整備」(42.1%)が4割を超えて高い。

5年前(平成18年度)との比較でみると、「高齢者のための施策」で14.4ポイント減少、「病院、診療所の整備や救急医療体制の整備」で9.8ポイント減少、「防犯対策」で9.4ポイント減少など、全体的に減少している。一方、10年前(平成13年度)との比較でみると、「道路・歩道の整備」で12.4ポイント増加、「交通安全対策」で7.8ポイント増加、「子どものための施策」で5.1ポイント増加となっている。

図8 (複数回答、上位10項目、平成18年度・平成13年度との比較)



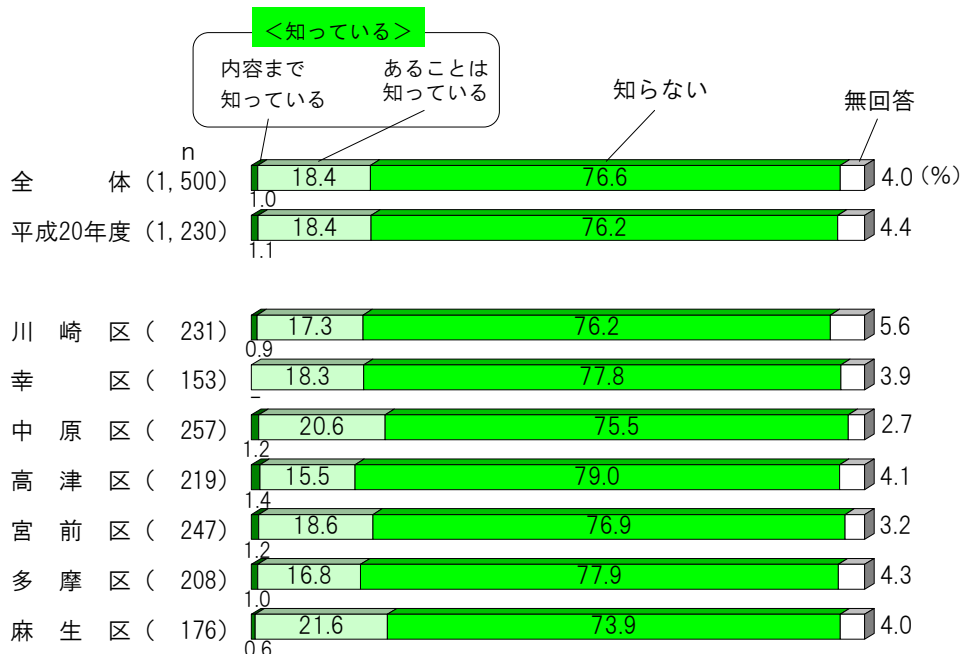
※1 平成13年度調査では、「防犯対策」という選択肢はなかった。

5 区民会議について

1 区民会議の認知状況

区民会議の認知状況を聞いた。「内容まで知っている」(1.0%)と「あることは知っている」(18.4%)を合わせた<知っている>は約2割であり、平成20年度調査時とほとんど差がみられない。居住区別にみると、<知っている>は、麻生区(22.2%)、中原区(21.8%)で2割を超えている。

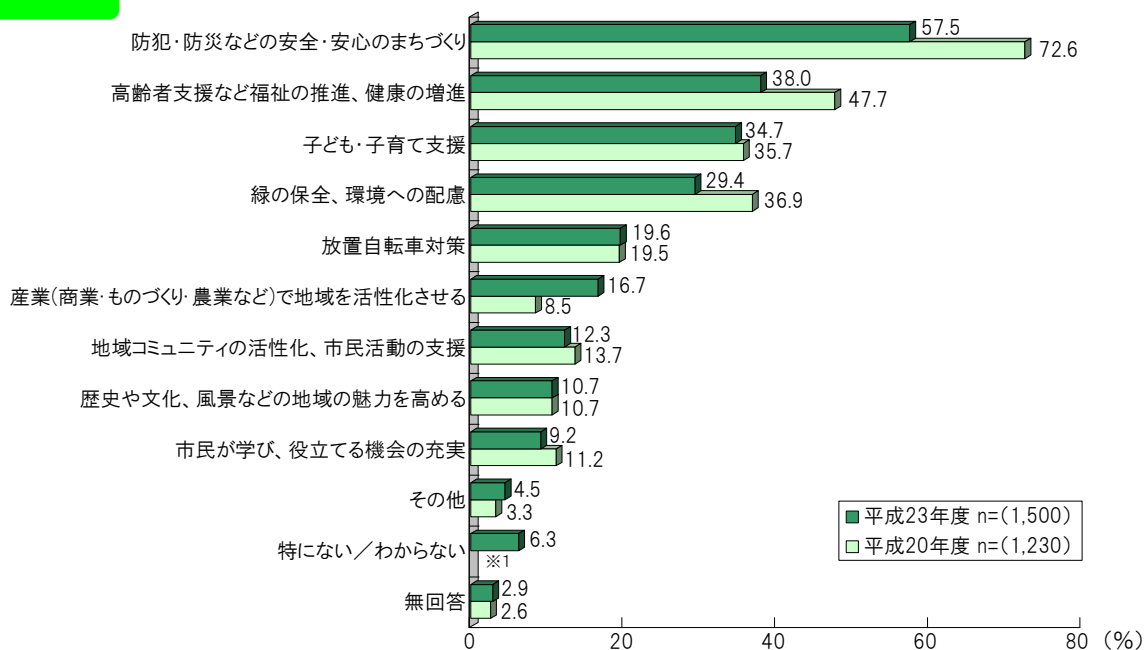
図9



2 区民会議で取り上げてほしい地域の課題

区民会議で取り上げてほしい地域の課題を聞いた。「防犯・防災などの安全・安心のまちづくり」(57.5%)、「高齢者支援など福祉の推進、健康の増進」(38.0%)の2項目は平成20年度調査時と同様に高く、次いで、「子ども・子育て支援」(34.7%)、「緑の保全、環境への配慮」(29.4%)と続いている。

図10 (複数回答、平成20年度との比較)

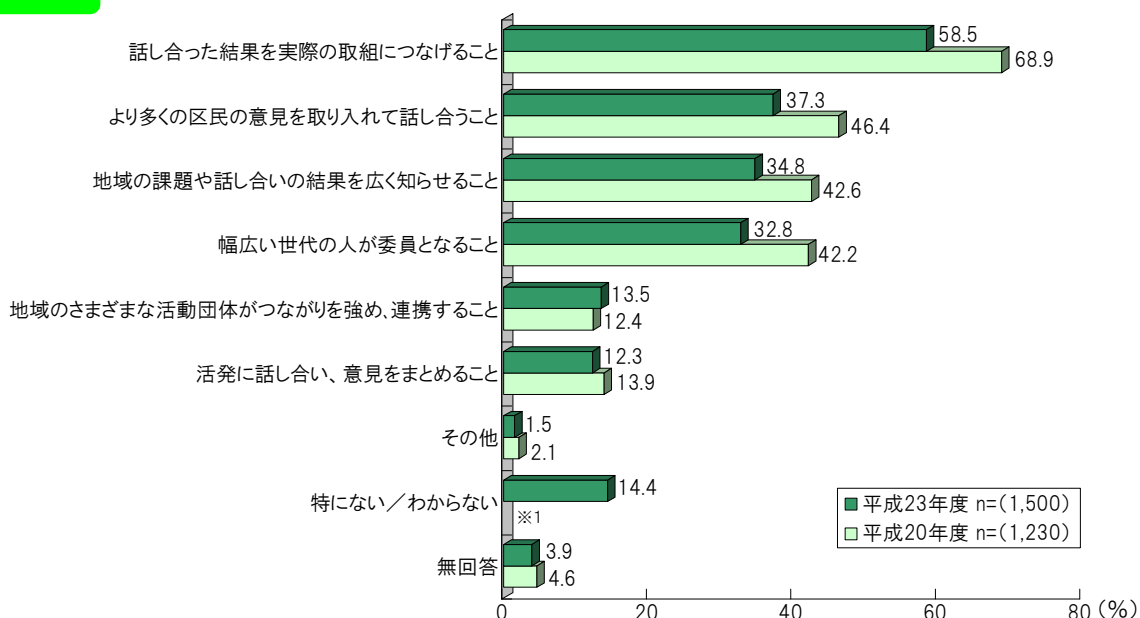


※1 平成20年度調査では、「特になし／わからない」という選択肢はなかった。

3 区民会議に期待していること

区民会議に期待していることを聞いた。「話し合った結果を実際の取組につなげること」(58.5%)が5割を超え最も高く、次いで「より多くの区民の意見を取り入れて話し合うこと」(37.3%)、「地域の課題や話し合いの結果を広く知らせること」(34.8%)、「幅広い世代の人が委員となること」(32.8%)が3割台で続いている。

図11 (複数回答、平成20年度との比較)



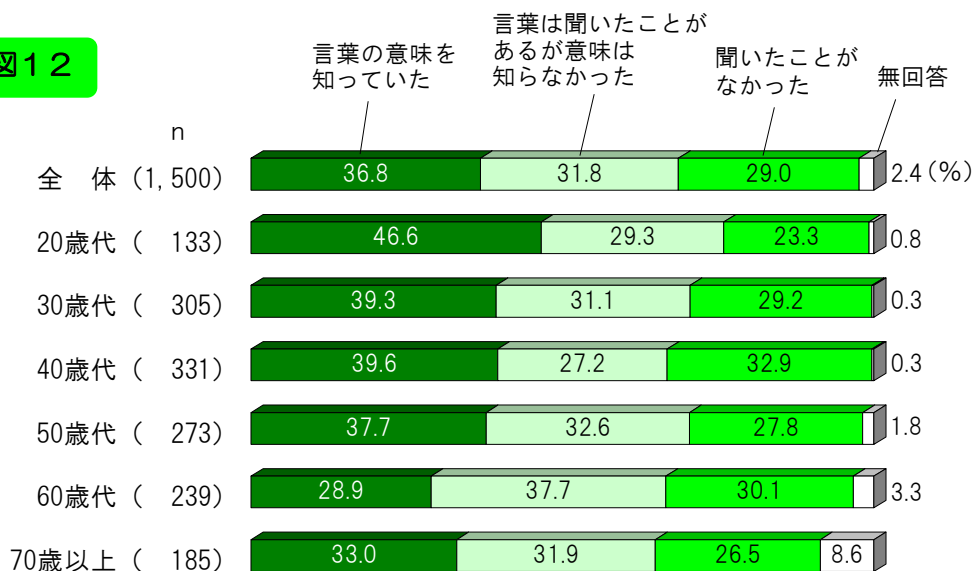
※1 平成20年度調査では、「特になし／わからない」という選択肢はなかった。

6 生物多様性について

1 「生物多様性」の認知状況

「生物多様性」の認知状況を聞いた。「言葉の意味を知っていた」(36.8%)が3割台後半、「言葉は聞いたことがあるが意味は知らなかった」(31.8%)が3割強、「聞いたことがなかった」(29.0%)が3割弱となっている。年代別でみると、「言葉の意味を知っていた」は20歳代(46.6%)で最も高くなっている。

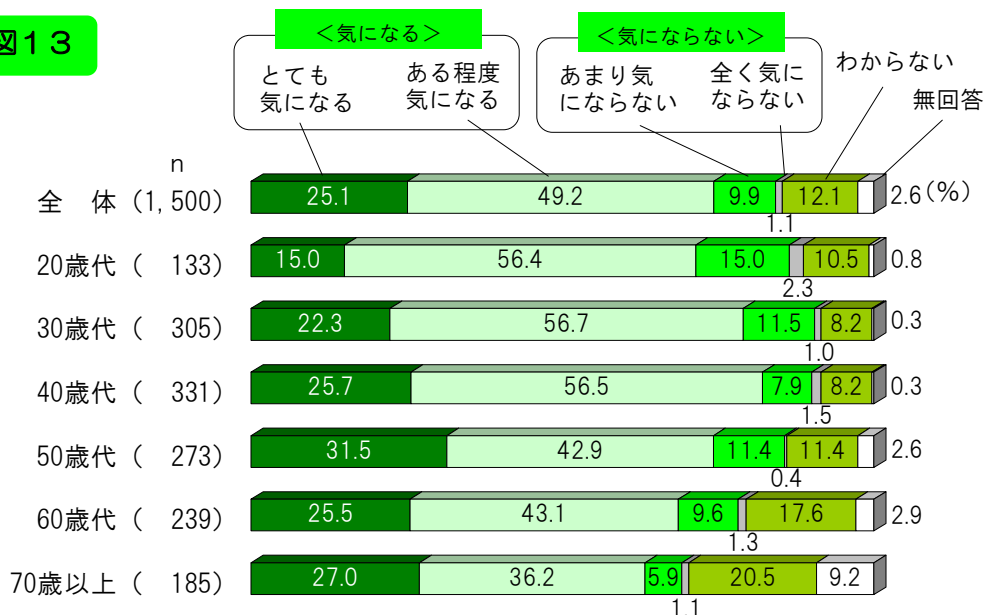
図12



2 生物多様性の危機への現状認識について

生物多様性の危機への現状認識について聞いた。「とても気になる」(25.1%)と「ある程度気になる」(49.2%)を合わせた<気になる>が7割を超えている。一方、「あまり気にならない」(9.9%)と「全く気にならない」(1.1%)を合わせた<気にならない>は約1割となっている。年代別でみると、40歳代で<気になる>の割合が8割を超え最も高くなっている。また、「とても気になる」の割合は、50歳代(31.5%)で3割を超え最も高くなっている。

図13



3 自然を感じる場所について

身近なところで自然を感じる場所について聞いた。居住区別でみると、「川、池などの水辺」は、中原区(62.3%)、高津区(56.6%)、幸区(51.6%)、川崎区(46.8%)で第1位となっている。「近郊の緑地」は、麻生区(64.2%)、多摩区(57.2%)、宮前区(54.3%)で第1位となっている。

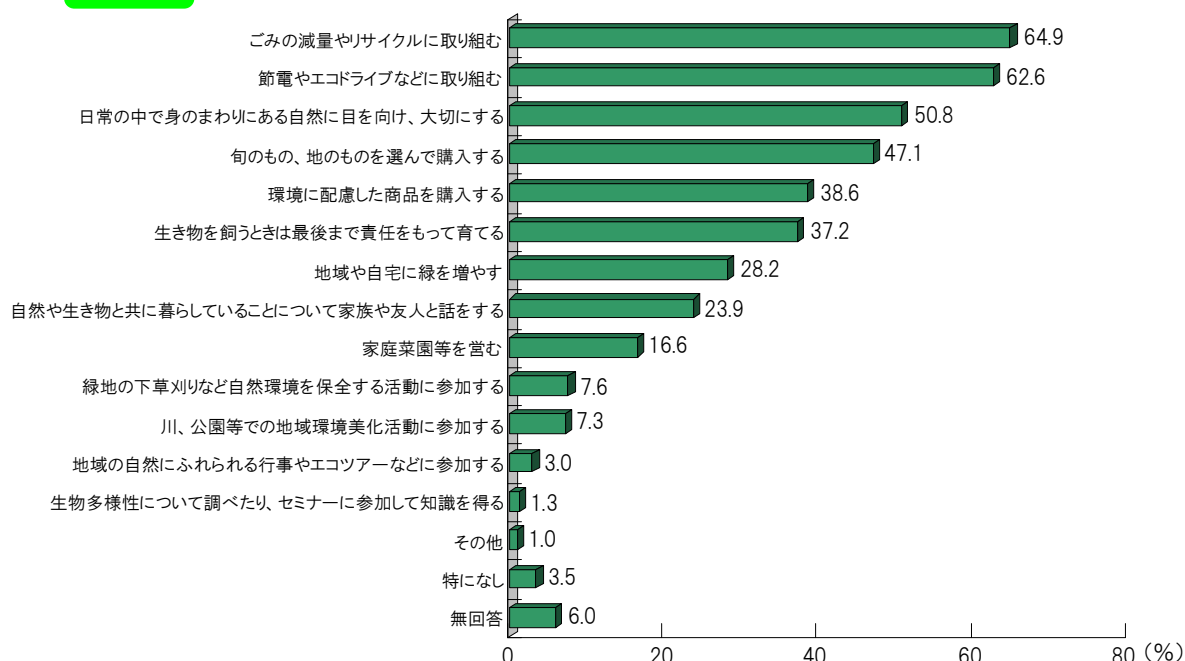
表2 居住区別 上位5項目(複数回答)

区別	順位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全体 (n=1,500)		川、池などの水辺 49.8	近郊の緑地 47.2	身近な公園・緑道 43.0	樹林のある大きな公園 40.3	田や畑などの農地 27.1
川崎区 (n=231)		川、池などの水辺 46.8	身近な公園・緑道 40.3	樹林のある大きな公園 39.0	近郊の緑地 29.0	神社・お寺 19.5
幸区 (n=153)		川、池などの水辺 51.6	身近な公園・緑道 47.7	樹林のある大きな公園 35.9	近郊の緑地 32.7	神社・お寺 17.6
中原区 (n=257)		川、池などの水辺 62.3	近郊の緑地 47.9	身近な公園・緑道 45.5	樹林のある大きな公園 39.7	神社・お寺 22.6
高津区 (n=219)		川、池などの水辺 56.6	樹林のある大きな公園 46.1	近郊の緑地 44.3	身近な公園・緑道 40.6	田や畑などの農地 30.1
宮前区 (n=247)		近郊の緑地 54.3	樹林のある大きな公園 50.6	身近な公園・緑道 46.2	川、池などの水辺 38.1	田や畑などの農地 34.8
多摩区 (n=208)		近郊の緑地 57.2	川、池などの水辺 56.7	身近な公園・緑道 34.6	田や畑などの農地 33.2	樹林のある大きな公園 31.3
麻生区 (n=176)		近郊の緑地 64.2	身近な公園・緑道 46.6	田や畑などの農地 39.2	樹林のある大きな公園 36.4	川、池などの水辺 33.5

4 生き物や自然環境を守るために、現在個人として取り組んでいること

生き物や自然環境を守るために、現在個人として取り組んでいることを聞いた。「ごみの減量やリサイクルに取り組む」(64.9%)、「節電やエコドライブなどに取り組む」(62.6%)がそれぞれ6割を超え高くなっている。次いで、「日常の中で身のまわりにある自然に目を向け、大切にする」(50.8%)、「旬のもの、地のものを選んで購入する」(47.1%)と続いている。

図14 (複数回答) n = (1,500)

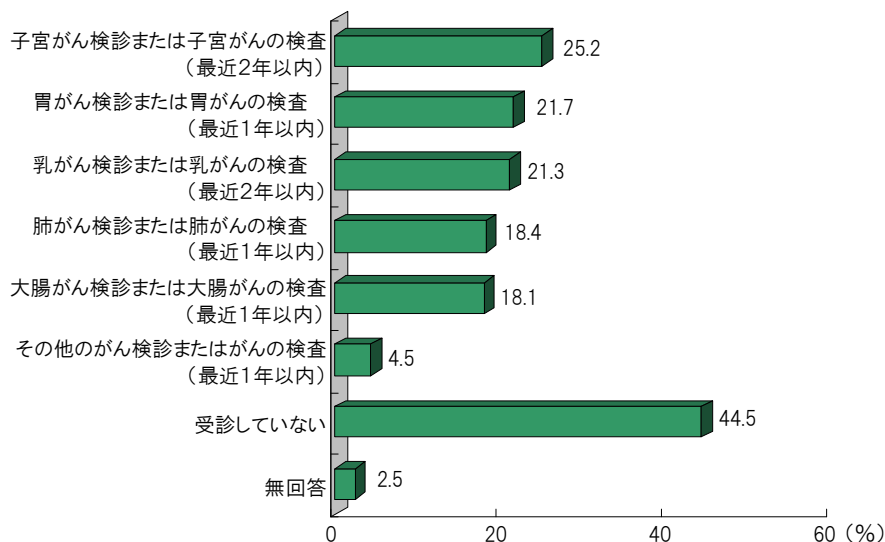


7 がん検診について

1 がん検診の受診状況

がん検診の受診状況について聞いた。「子宮がん検診または子宮がんの検査」(25.2%)が2割半ば、「胃がん検診または胃がんの検査」(21.7%)、「乳がん検診または乳がんの検査」(21.3%)、「肺がん検診または肺がんの検査」(18.4%)、「大腸がん検診または大腸がんの検査」(18.1%)がそれぞれ約2割となっている。一方、「受診していない」(44.5%)は4割半ばとなっている。

図15 (複数回答) n = (1,500)

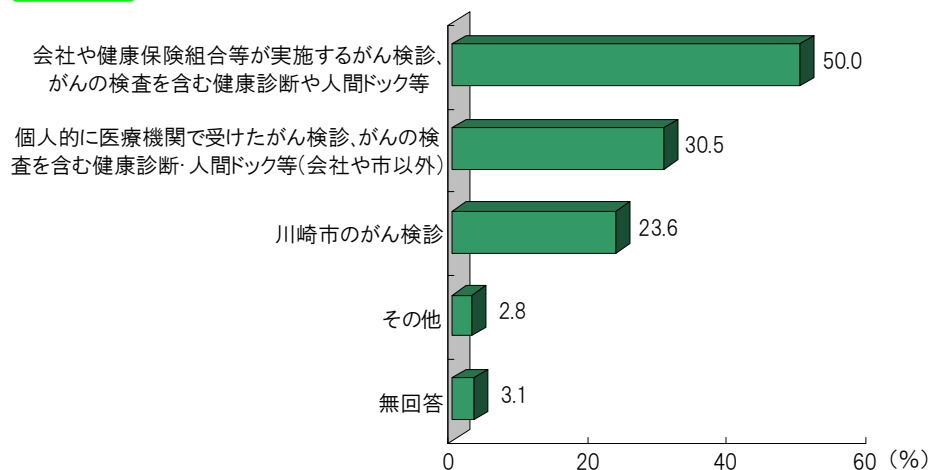


・肺がん、大腸がん、胃がん検診は最近1年以内、子宮がん、乳がん検診は最近2年以内のがん検診またはがんの検査を含む健康診断や人間ドック等の受診経験を聞いている。

2 受診したがん検診の種類

受診したがん検診の種類について聞いた。「会社や健康保険組合等が実施するがん検診等」(50.0%) が5割で最も高くなっている。「個人的に医療機関で受けたがん検診等」(30.5%) は約3割、「川崎市のがん検診」(23.6%) は2割強となっている。

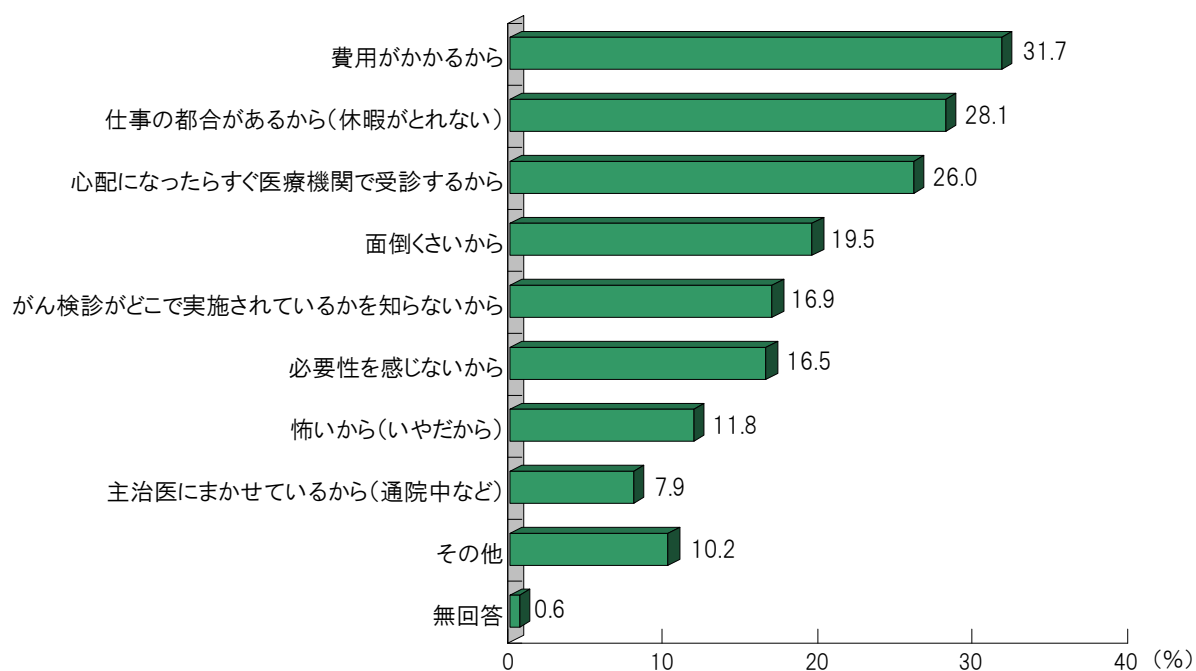
図16 (複数回答) n = (794)



3 がん検診を受診しない理由

がん検診を受診していない人に、受診しない理由を聞いた。「費用がかかるから」(31.7%) が3割を超え最も高く、次いで「仕事の都合があるから(休暇がとれない)」(28.1%)、「心配になったらすぐ医療機関で受診するから」(26.0%) と続いている。

図17 (複数回答) n = (668)

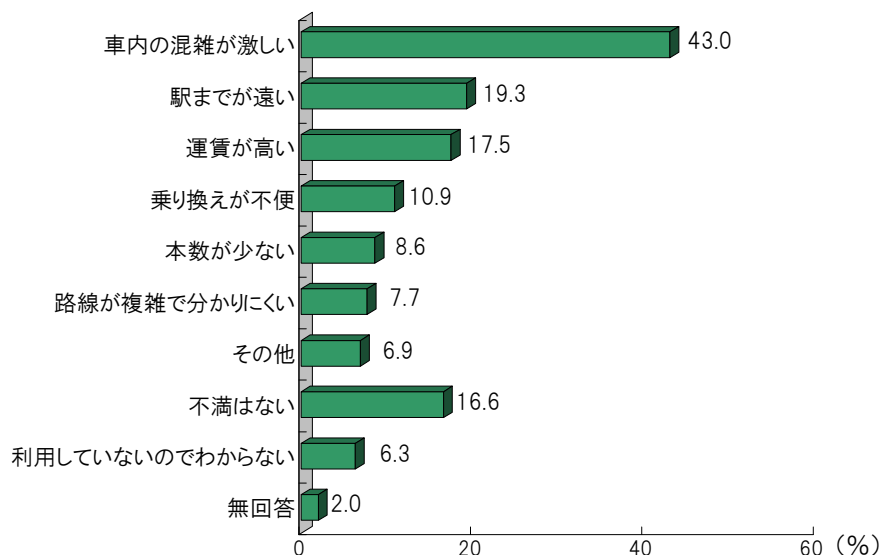


8 川崎市の都市交通について

1 公共交通機関（鉄道、バス）の不満

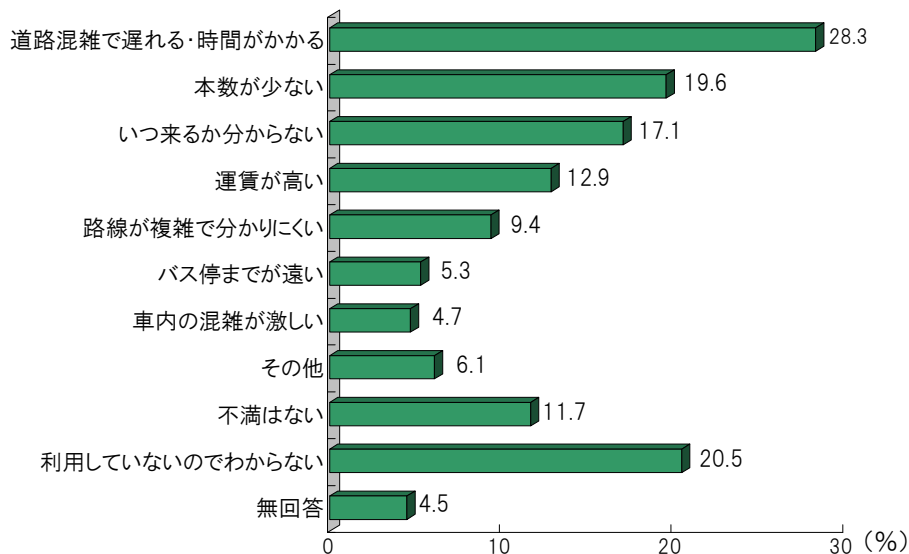
鉄道利用において不満と感じている点について聞いた。「車内の混雑が激しい」（43.0%）が4割を超え最も高くなっている。次いで、「駅までが遠い」（19.3%）、「運賃が高い」（17.5%）と続いている。

図18 （複数回答） n = (1,500)



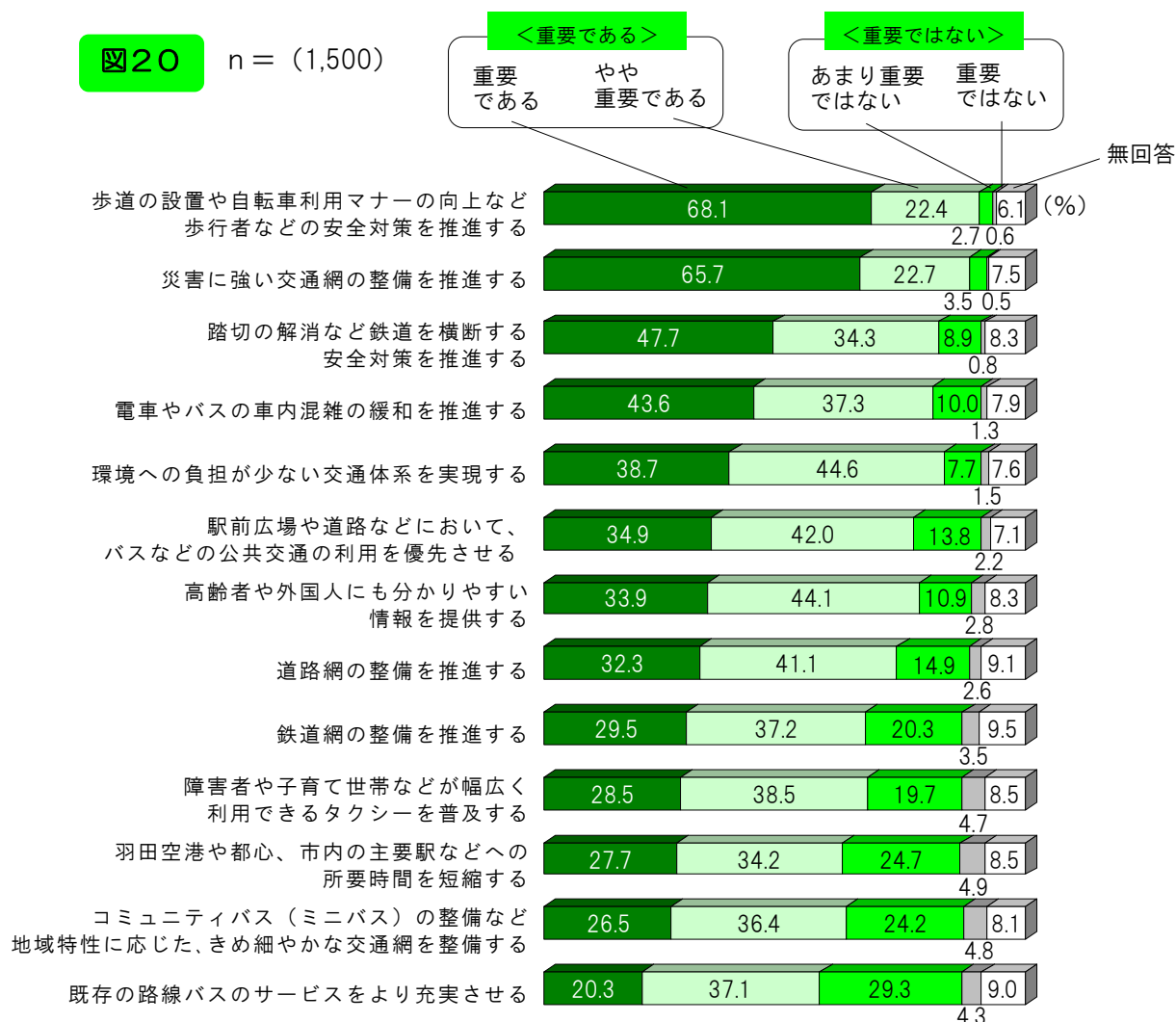
バス利用において不満と感じている点について聞いた。「道路混雑で遅れる・時間がかかる」（28.3%）が約3割で最も高くなっている。次いで、「本数が少ない」（19.6%）、「いつ来るか分からない」（17.1%）と続いている。

図19 （複数回答） n = (1,500)



2 市の交通政策について

市の交通政策について聞いた。「重要である」と「やや重要である」を合わせた＜重要である＞は、「歩道の設置や自転車利用マナーの向上など歩行者などの安全対策を推進する」（90.5%）、「災害に強い交通網の整備を推進する」（88.4%）が約9割と高くなっている。

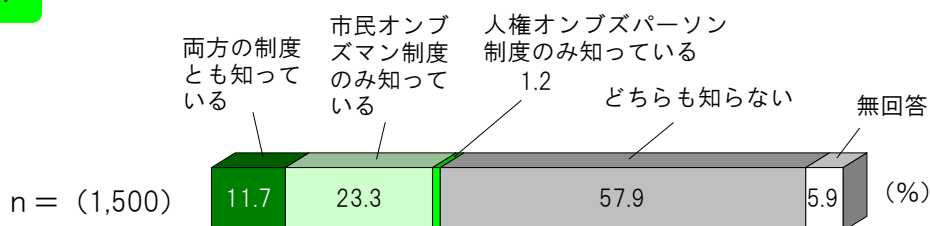


9 川崎市民オンブズマン制度及び人権オンブズパーソン制度について

1 市民オンブズマン制度及び人権オンブズパーソン制度の認知状況

市民オンブズマン制度及び人権オンブズパーソン制度の認知状況を聞いた。「市民オンブズマン制度のみ知っている」（23.3%）が2割強、「両方の制度とも知っている」（11.7%）は約1割となっている。なお、「どちらも知らない」（57.9%）は6割弱となっている。

図21

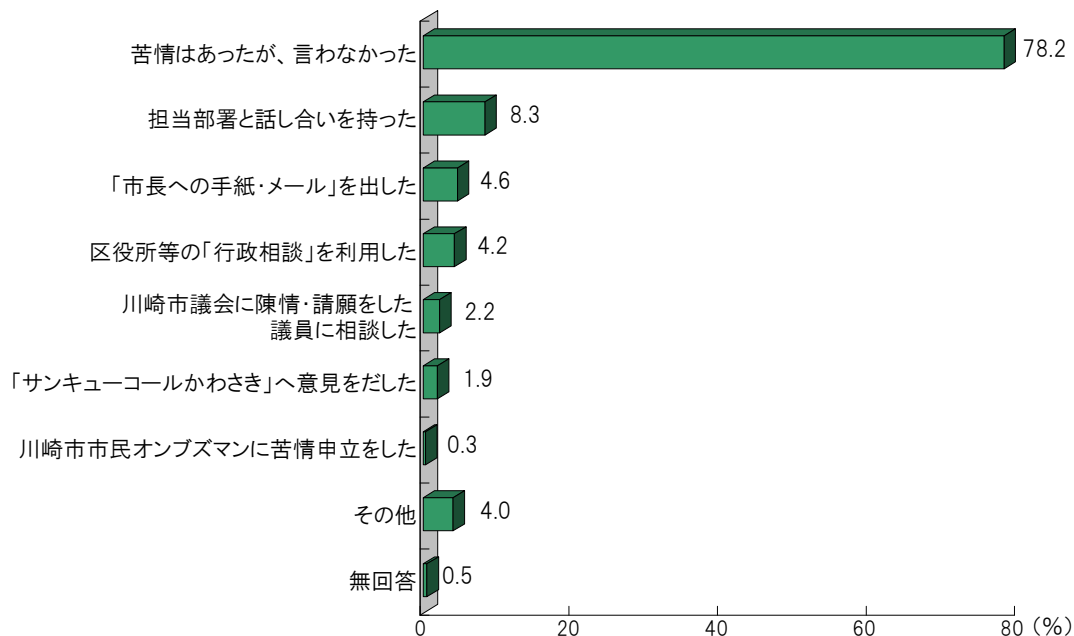


2 市政や市の職員に苦情を言いたくなったときの対応

市政や市の職員に苦情を言いたくなったことがあると回答した人に、そのときの対応を聞いた。「苦情はあったが、言わなかった」(78.2%)が8割弱で最も高くなっている。次いで、「担当部署と話し合いを持った」(8.3%)、「『市長への手紙・メール』を出した」(4.6%)、「区役所等の『行政相談』を利用した」(4.2%)と続いている。

図22

(複数回答) n = (625) ※総数 1,500 のうち苦情を言いたくなったことがあると回答した人数

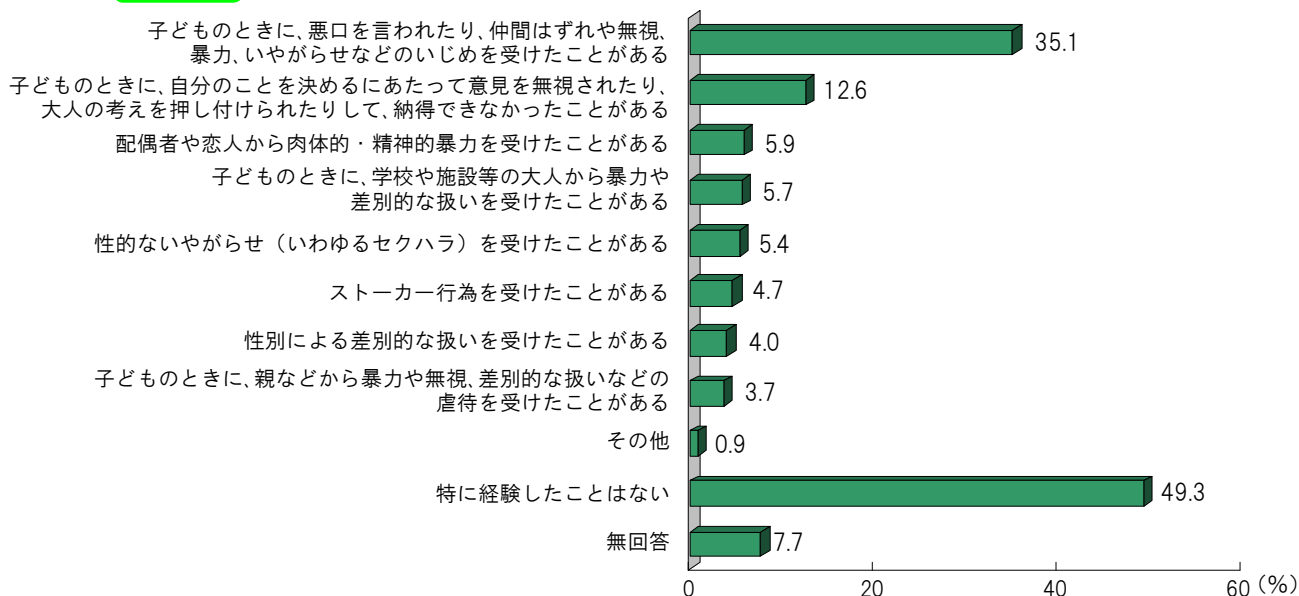


3 人権に関するトラブルに遭った経験

人権に関するトラブルに遭った経験を聞いた。「子どものときに、悪口を言われたり、仲間はずれや無視、暴力、いやがらせなどのいじめを受けたことがある」(35.1%)が最も高く、次いで「子どものときに、自分のことを決めるにあたって意見を無視されたり、大人の考えを押し付けられたりして、納得できなかったことがある」(12.6%)と続いている。一方、「特に経験したことはない」(49.3%)は約5割となっている。

図23

(複数回答) n = (1,500)

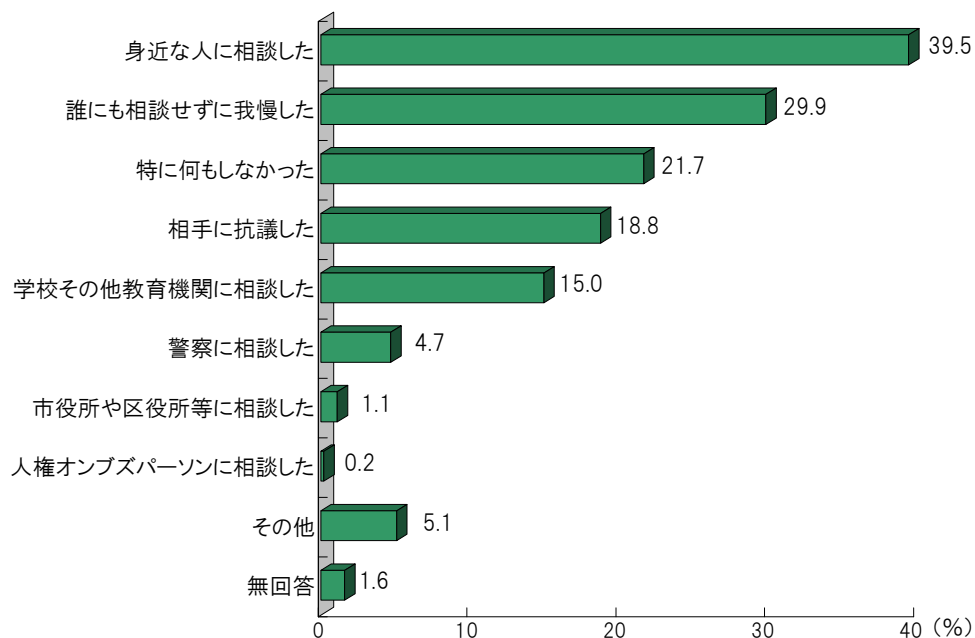


4 人権に関するトラブルに遭ったときの対応

人権に関するトラブルに遭ったときの対応を聞いた。「身近な人に相談した」(39.5%) が約4割で最も高くなっている。「誰にも相談せずに我慢した」(29.9%) は約3割、「特に何もしなかった」(21.7%) は約2割となっている。

図24

(複数回答) n = (645)



平成23年度第2回かわさき市民アンケート概要版

平成24年2月

発行 川崎市総務局市民情報室市民の声担当

〒210-8577

川崎市川崎区宮本町1番地

電話 044-200-2291 (直通)

FAX 044-200-3919